

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	東洋医学概論1	講義	4	80	経絡経穴概論、東洋医学臨床論
学科・学年	担当教員名	科目関連実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
鍼灸学科 1学年	久保田 明美	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	特記事項なし		
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p>【教育目標】 多様化する医療ニーズに応え、臨床現場で活躍するための実践的な臨床知識を身につけるため東洋医学の基本的知識を1年次は学んでいく。東洋医学的知識を分類し整理することで、適切な鍼灸治療の組み立て、個々の患者に対し治療方法を導き出す「総合判断」の力を養う基盤の科目となる。</p> <p>【行動目標】 ①本科目履修範囲内から作成された国家試験相当の難易度の多肢選択問題を正答率60%以上で解答できる。 ②基本である、気血津液・五行・五臓六腑の証の理解と説明ができる。</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>「東洋医学概論」は、基礎理論の習得に留まらず、「臨床能力の向上」に向けた不可欠な基盤を築くことにあり、2年次で学ぶ実践的な「東洋医学臨床論」へと進むための前提となる知識として位置づけられている。 なお、授業進行は国家試験出題順となっており、教科書ページ数が前後するため注意をする。</p>					
教科書・参考書					
<p>主題として取り扱う教科書は、東洋療法学校協会「新版 東洋医学概論」、参考として扱うのは東洋療法学校協会「新版 経絡経穴学概論」 予定表中のテーマ欄には、場合によって主として取り扱う内容を主題として、また、主題の理解に参考となる内容を教科書該当項目とページ数を表記した部分がある。授業の回によって主となる教科書が本科目名と異なる場合があるので注意されたい。 その他、学習に役立つ書籍等がある場合は都度紹介する。</p>					
受講時留意点、その他					
<p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照 ●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。 ●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。 ●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。 ●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。 ●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。 ※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。 いったん配布した資料の再配布は、資源節約の観点から原則として行いません。なお、これに伴い配布した資料の控えと欠席者分の未配布資料については、当該年度内に限り職員室で保管いたします。授業中に受け取れなかった場合は担任もしくは授業担当者に授業時間外に相談して下さい。紛失等で再配布を希望する場合は、控えを貸出しますので当日中に自己負担で複製下さい。</p> <p>【 受講科目受講時留意点 】 ●授業中の私語は他生徒への授業妨害になり得ることを自覚して慎んでください。 ●授業内容への質問は進行や他の学生との兼ね合いの都合上やむを得ず時間外に受付とさせていただきます。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	定期試験を前期と後期の最低2回実施。難易度は国家試験相当として、合格基準を正答率60%以上とする。問題形式は4者択一の他に、必要に応じて他の形式も出題することもある。			
その他		追加で成績加算対象となる課題や試験を実施する場合は都度事前に告知する。(小テストおよび提出物(定期本試験のみ加点の加算))			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		オリエンテーション 第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の沿革 P1～12 黄帝内経(素問・靈枢)		/	久保田
2		第2節 人体の見方 P13～17 第3節 東洋医学的治療 P18～28 第4節 日本の東洋医学の現状 P29～ 36 天人合一、心身一如、治未病		/	久保田
3		第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説 P182～187 陰陽の相互関係(互根、対立と制約、消 長と転化、可分)		/	久保田
4		第2節 五行学説-1 P188～200 五行分類(木火土金水)、五行の関係 (相生、相克、相乗、相侮)		/	久保田
5		五行学説-2 P188～200 五行色体表		/	久保田
6		五行学説-3 P188～200 五行色体表		/	久保田
7		第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 生理物質(精) P38～42 精の生理、精の病理(精虚)		/	久保田
8		生理物質(気) P42～49 気の生理、気的作用(原気、宗気、営 気、衛気)		/	久保田
9		生理物質(気) P42～49 気的作用(推動、温煦、固摂、防御、気 化)、気の病理(気虚、気陥、気脱、気 鬱・気滞、気逆)		/	久保田
10		生理物質(血) P50～53 血の生理、血の病理(気虚、血瘀)		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		生体物質(津液) P54～57 津液の生理、津液の病理(津液不足、 痰湿)		/	久保田
12		生体物質の相互関係 P58～62 気の血に対する作用(生血、行血、摂 血)		/	久保田
13		神 P62～68 神の生理(五神、五志)、神の病理		/	久保田
14		人体における陰陽 P68～73 陰陽の生理、陰陽の病理(陰虚、陰 盛、陽虚、陽盛)		/	久保田
15		第2節 藏象学説 P74～77 五臓、六腑、奇恒の腑		/	久保田
16		肝・胆 P77～87 肝の生理作用(疏泄、藏血)、肝の生理 特性(昇発、条達)		/	久保田
17		肝・胆 P77～87 肝の病証(肝鬱気滞、肝火上炎、肝血 虚、肝陰虚、肝陽上亢)		/	久保田
18		肝・胆 P77～87 胆の生理作用、胆の病証、肝胆の相互 関係(肝胆湿熱)、女子胞		/	久保田
19		まとめ		/	久保田
前期期試験(授業外実施)					
20		心・小腸 P87～97 心の生理作用(主血、神志を主る)、心 の生理特性(全身の陽気を主る、臟腑 を統括する)		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
21		心・小腸 P87～97 小腸の生理作用、小腸の病証(小腸実熱)、脈、脳		/	久保田
22		脾・胃 P97～105 脾の生理作用(運化、統血)、脾の生理特性(昇清、喜燥惡湿)		/	久保田
23		脾・胃 P97～105 脾の病証(脾気虚、脾陽虚、脾虚湿盛)		/	久保田
24		脾・胃 P97～105 胃の生理作用、胃の生理特性、胃の病証(食滯胃脘、胃熱)、脾胃の相互関係(脾胃湿熱)		/	久保田
25		肺・大腸 P106～114 肺の生理作用(宣發・肅降、主気)、肺の生理特性(華蓋と嬌臓)		/	久保田
26		肺・大腸 P106～114 肺の病証(肺気虚、肺陰虚、風寒犯肺、風熱犯肺、痰湿阻肺)		/	久保田
27		肺・大腸 P106～114 大腸の生理作用、大腸の病証(大腸湿熱)		/	久保田
28		腎・膀胱 P115～125 腎の生理作用(蔵精、主水、納気)、腎の生理特性(封蔵、陰陽の根本)		/	久保田
29		腎・膀胱 P115～125 腎の病証(腎精不足、腎気虚、腎陽虚、腎陰虚)		/	久保田
30		腎・膀胱 P115～125 膀胱の生理作用、膀胱の病証(膀胱湿熱)、髓		/	久保田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
31		三焦 P125～127 五臓の相互関係と病証 P127～141 三焦の概念、心肝血虚、心肝火旺		/	久保田
32		五臓の相互関係 P127～141 肺脾気虚、心脾両虚、肺腎気虚、痰湿 阻肺、肺腎陰虚		/	久保田
33		五臓の相互関係 P127～141 肝腎陰虚、肝脾不和、心腎陰虚、心腎 不交、心腎陽虚、脾腎陽虚		/	久保田
34		六腑の協調関係 P142 全身の気機 P143～149 昇降出入		/	久保田
35		第4節 病因病機 P161～180 外感病因(六淫、疫癘)		/	久保田
36		病因病機 P161～180 内傷病因(飲食不節、劳逸、房事過多、 七情の失調)		/	久保田
37		病因病機 P161～180 伝変と波及、内生五邪		/	久保田
38		まとめ		/	久保田
39		まとめ		/	久保田
後期試験(授業外実施)					
40		試験解説		/	久保田